

原井の三則

- ☆場を清める
- ☆時間秩序を正す
- ☆人間関係を高める



第200号 令和4年  
10月14日(金)  
発行・原井小学校  
TEL22-0863

十月も半ばとなり、すっかり秋めいてまいりました。朝夕は、肌寒さを感じる今日この頃です。季節の変わり目で体調など崩されませぬようにご自愛ください。

**Society5.0(ソサエティー5.0)**

十月四日に全校朝礼を行いました。全校児童が体育館に集まるのも久々でした。そんな中で、Society5.0について話をしました。これは、平成二十八年に閣議決定された第五期科学技術基本計画の中で提唱されたもので、今後の教育や学びに大きく関わってくる大切なものです。低学年には難しいかなとも思ったのですが、できるだけ分かりやすくということ、思い切った話してみました。

Society5.0とは、狩猟社会(Society1.0)、農耕社会(Society2.0)、工業社会(Society3.0)、そして現代の情報社会(Society4.0)の次に訪れる新しい社会のことです。どんな社会かと言うと、「サイバー空間とフィジカル(現実

空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会」なのだそうです。こんなことは、難しすぎるので子ども達には言いませんが、次の様な説明をしました。

現代の情報社会では、人がナビで検索をして運転をしたり、人が情報を分析・提案したり、人の操作によりロボットが生産をしたりします。これがSociety5.0では、自動走行車で自動走行したり、情報を分析しなくてもAIが人に提案をしてくれたり、工場で自動的にロボットが生産をしてくれたりするようになります。

現実社会のありとあらゆるものがセンサーやチップによってインターネットとつながり、その膨大な情報をAIが処理して、分かりやすく人間に提示してくれるようになります。そこに自動運転や機械による生産などといった高度な機械技術が融合して、現実社会における問題をより効率よく解決しようとする手段が進歩します。その

ような社会がもうすぐそばまで来ているということ、このように言うとう、AIやロボットに支配される社会のよう感じるかもしれません、そうではありません。誰もが快適に便利に生活できる、一人一人の人間が中心となる社会、それが、Society5.0です。

では、このような社会に向けて教育は、学びはどのように変わるのでしょうか。端的に言うとう、「一人一人の能力や適性に応じて個別最適化された学びの実現が求められるようになります。読解力など基礎的な学力を確実に習得させながら、個人の進捗や能力、関心に応じた学びの場が変わっていきます。学習到達度や学習課題等に応じた異年齢・異学年集団での協働学習が取り入れられていきます。教室での学習が、外部の大学や研究機関、企業、NPO等を活用した多様な学習へと変わっていきます。

このような変化に対応するために、学校も変わっていくかなければなりません。これまではこうしていたからといった前例主義的な意識をまずは捨てなければなりません。教師が教えるという発想から、子どもの興味や関心を中心に置いた学びを提供する努力も必要です。Society5.0に向けてデジタル革新を担える能力を開発していくことは

必須といえるでしょう。学校が変わっていくことは決して簡単なことではありませんが、未来の変化に向けての努力は、今すぐに始めていかなければならないと考えると、そこです。

**原井校大運動会**

天気にも恵まれ、原井校大運動会を九月十七日(土)に開催しました。その様子を写真で紹介します。

